

4 子どもへの期待と習い事

1

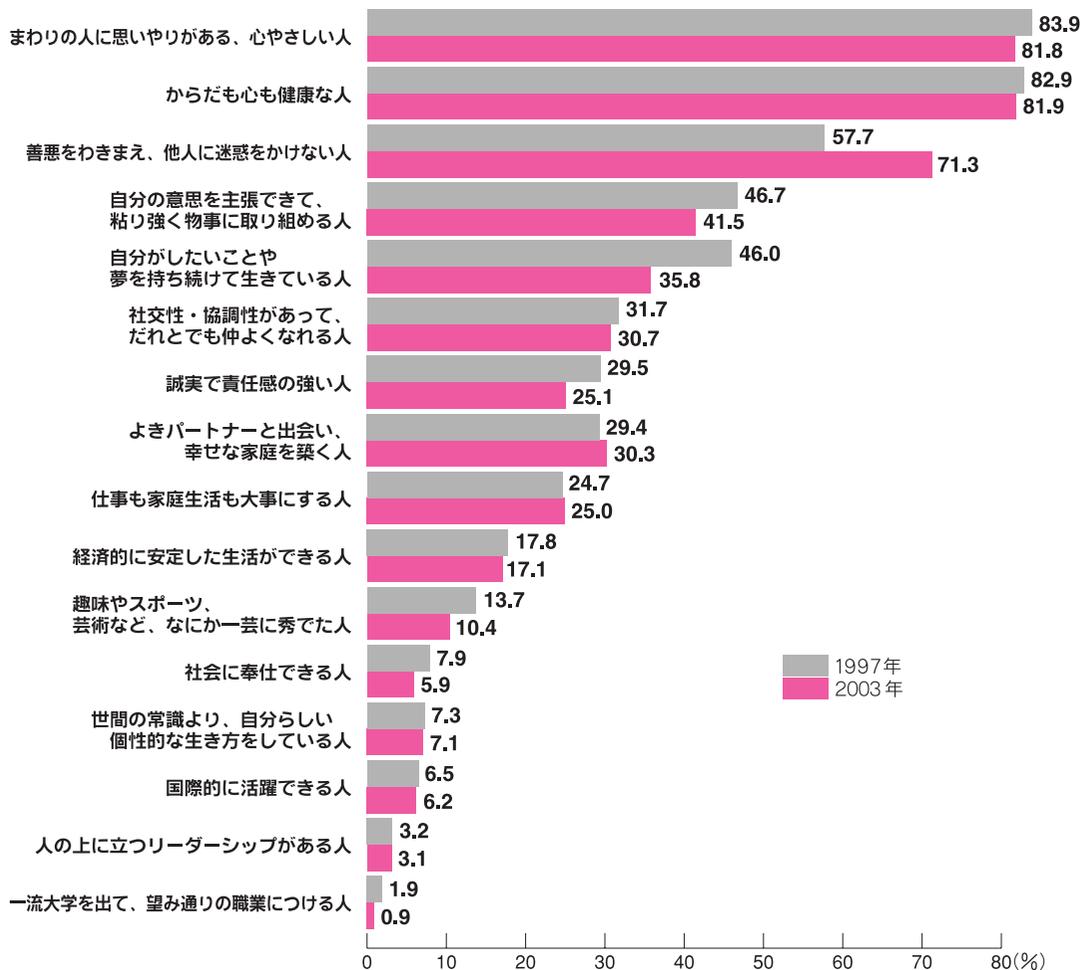
「他人に迷惑をかけない人」を願う保護者が増加

保護者が子どもに期待する将来像を6年前と比較すると、「善悪をわきまえ、他人に迷惑をかけない人」が13.6ポイント増加している。

Q お子様には、将来どのような人になってほしいと思いますか。

図4-1 将来どのような人になってほしいか（経年比較）

16項目の中から5つまで選択



保護者が子どもに期待する将来像は、「まわりの人に思いやりがある、心やさしい人」「からだも心も健康な人」が多く、「一流大学を出て、望みどおりの職業につける人」「人の上に立つリーダーシップがある人」は少ない。

1997年調査との比較では、「善悪をわきまえ、他人に迷惑をかけない人」が大きく増加し、「自分の意思を主張できて、粘り強く物事に取り組める人」「自分がしたいことや夢を持ち続けて生きている人」が減少した。

2

四年制大学への進学期待が低くなっている

1997年調査と比較すると、四年制大学への進学期待は全体的に低くなっている。性別、出生順位別、母親学歴別によって希望する進学段階には差がある。



お子様をどこまでの学校へ進学させたいとお考えですか。

図4-2 希望する進学段階（経年比較）

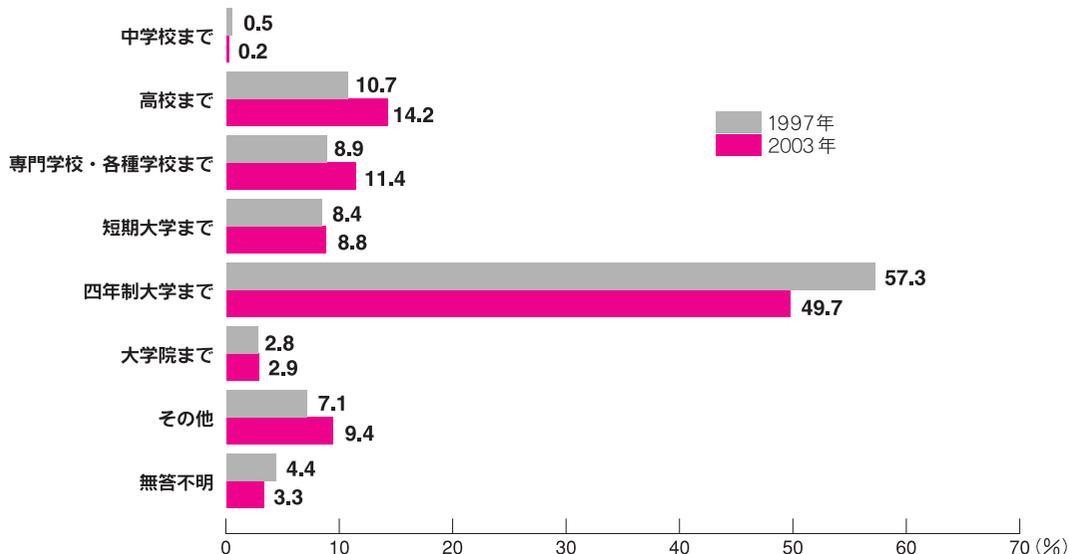


表4-1 希望する進学段階（性別、出生順位別、母親学歴別）

	(%)									
	全体	性別		出生順位別		母親学歴別				
		男子	女子	第1子	第2子以降	中学校まで	高校まで	専門学校・各種学校まで	短期大学まで	四年制大学・大学院まで
中学校まで	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	1.8	0.3	0.0	0.1	0.2
高校まで	14.2	13.7	14.7	13.7	14.7	50.9	25.8	11.4	4.2	3.6
専門学校・各種学校まで	11.4	10.3	12.7	9.5	13.6	22.8	17.8	16.1	4.8	1.1
短期大学まで	8.8	0.3	17.8	7.6	10.1	8.8	9.4	8.7	13.6	2.4
四年制大学まで	49.7	59.5	39.3	52.4	47.0	7.0	33.8	46.9	62.0	73.1
大学院まで	2.9	4.0	1.7	3.3	2.3	0.0	0.7	1.8	2.8	8.5
その他	9.4	9.1	9.8	9.9	8.9	5.3	9.0	10.8	9.1	9.2
無答不明	3.3	2.8	3.9	3.4	3.2	3.5	3.3	4.3	3.4	1.9

《、》は10ポイント以上の差、<、>は5ポイント以上の差があるもの

希望する進学段階を1997年調査と比較すると、「四年制大学まで」が減少しており、期待する学歴の水準が低くなっていることがわかる（図4-2）。2003年調査について性別、出生順位別にみると、「男子」「第1子」は「四年制大学」以上を希望する割合が高い。さらに、母親の学

歴別にみると、「短期大学」以上を卒業している母親は、子どもに「四年制大学」や「大学院」を期待する割合が高いことがわかる（表4-1）。この傾向は、父親の学歴別にみても同様である（表省略）。

3

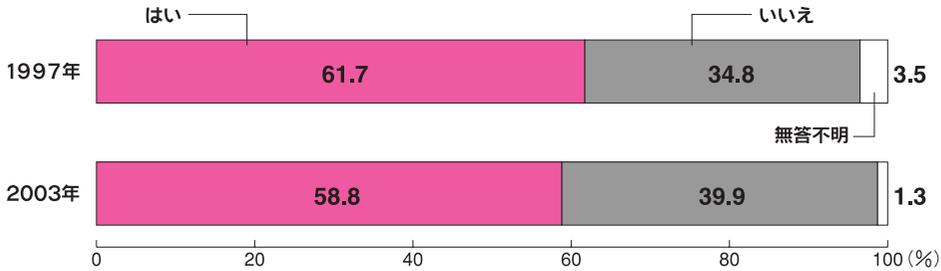
習い事をする割合はやや低下している

習い事をしている割合は全体でも若干の減少傾向がみられるが、スポーツ系や学習系の習い事に比べて、芸術系の習い事の減少幅が大きい。



現在、お子様は習い事、スポーツクラブ、通信教育などを行っていますか。

図4-3 習い事の割合（経年比較）



お子様はどのような習い事をしていますか。

図4-4 習い事の内容（種別）

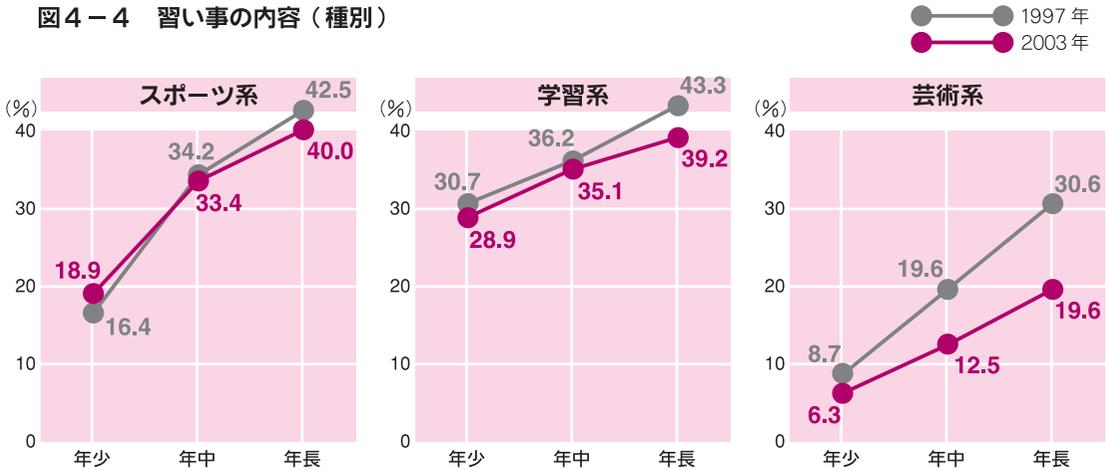


表4-2 習い事の内容（性別・上位10位）

	全体	性別	
		男子	女子
定期的に教材が届く通信教育	23.1	21.4	24.9
スイミングスクール	22.4	24.4	20.3
英会話などの語学教室や個人レッスン	13.0	11.8	14.1
スポーツクラブ・体操教室	11.9	14.2	9.5
楽器	7.4	4.1	10.9
バレエ・リトミック	5.0	1.2	9.0
幼児向けの音楽教室	4.7	2.7	6.8
一度に購入する教材・教育セット	4.1	3.4	4.8
計算・書きとりなどのプリント教材教室	3.7	3.7	3.7
地域のスポーツチーム	3.1	5.8	0.2

※スポーツ系は、「スイミングスクール」「スポーツクラブ・体操教室」「地域のスポーツチーム」から最低1つ、学習系は、「小学校受験のための塾や家庭教師」「英会話などの語学教室や個人レッスン」「計算・書きとりなどのプリント教材教室」「定期的に教材が届く通信教育」「一度に購入する教材・教育セット」から最低1つ、「芸術系」は、「楽器」「幼児向けの音楽教室」「お絵かきや造形教室」から最低1つを選んだ比率。

1997年調査と比較すると、習い事をしている割合は61.7→58.8%と若干低下している(図4-3)。習い事の種別でみると、スポーツ系や学習系の習い事には大幅な低下はみられないが、「楽器」「音楽教室」「お絵かきや造形教室」などの芸術系の習い事の低下幅が大きい(図4-4)。内容を性別にみると、「スイミングスクール」「スポーツクラブ・体操教室」「地域のスポーツチーム」などで男子が多く、「楽器」「バレエ・リトミック」「音楽教室」などで女子の割合が高くなっている(表4-2)。

4

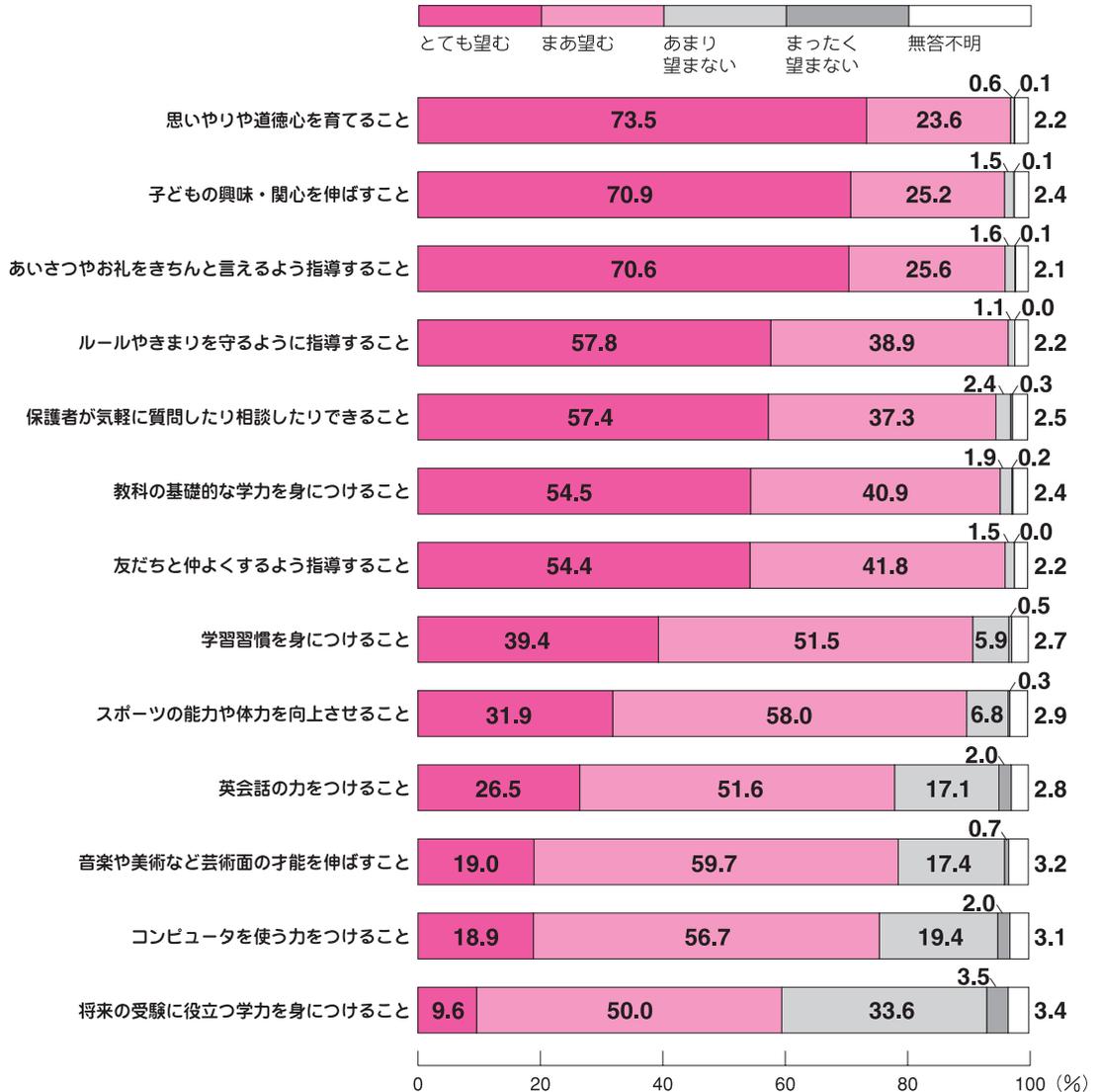
小学校には「学力」より「思いやりや道徳心」を期待

幼児の保護者が小学校に期待する指導は、思いやり・道徳心、興味・関心などの内面的成長をうながす指導と、礼儀などの基本的なしつけである。



お子様がこれから通う小学校にどのような指導や取り組みを望みますか。

図4-5 小学校に望むこと



幼児の保護者は、小学校に対して「思いやりや道徳心を育てること」をもっとも強く望んでいる。以下、「子どもの興味・関心を伸ばす」指導や、「あいさつやお礼をきちんとと言える」「ルールやきまりを守る」などの社会性の育成、「保護者が気軽に質問したり相談したりできる」開かれた学校づくりを期待している。「教科の基礎学力を

身につける」は13項目中6位、「学習習慣を身につける」は8位と中ほどに位置し、「英会話」や「コンピュータを使う力」などの技能面は下位である。しかし、「とても望む」と「まあ望む」をあわせると8項目で9割以上になっており、小学校への期待は総じて高いことがわかる。